令和元年度　第２回恵庭市学力・体力向上推進会議　会議録

〔開催日時〕　令和元年９月５日（木）１３：３０～１４：５０

〔開催場所〕　恵庭市役所　３階　３０１・３０２会議室

〔出席者（敬称略・順不同）〕

委員長／長岡　秀明（恵庭市教育委員会点検評価委員会）

委　員／田島　与久（恵庭市教育委員会点検評価委員会）

結城　健介（恵庭市教育委員会点検評価委員会）

谷口みどり（恵庭市小中学校校長会）

藤村　哲子（恵庭市小中学校教頭会）

佐々木　保（若草小学校・柏陽中学校　学校運営協議会）

木村　博子（恵庭市教育委員会指導主事：学力向上アドバイザー）

河内　紀彦（北海道ハイテクＡＣアカデミー）

事務局／教育長、教育部長、教育部次長、教育総務課長、教育総務課主査・スタッフ・指導主事

※川原　淳一　副委員長（恵庭市ＰＴＡ連合会）は所用により欠席。

〔傍聴者〕　２名

〔内　容〕　※長岡委員長が進行

１．開会

２．委員長挨拶（長岡委員長）

３．教育長挨拶（穂積教育長）

４．議事

学力・体力の取組について

事務局より説明

【説明要旨】

事前に委員の皆様よりいただいた意見を集約したので、紹介する。

①ＡＬＴの配置について

児童・生徒の外国語教育の充実を図るため、ＡＬＴが各校を巡回して指導している。昨年の会議での意見も踏まえ、本年度は１名増員となったが、次年度の新学習指導要領完全実施に伴う時数増に対応するため、市教委では、さらにＡＬＴを増員することを検討している。

これに対して、委員からは、ＡＬＴを増員すべきという意見が多く、「英語教員との連携」「英語教員の指導力向上」が必要という意見もあった。

②教職員への研修、環境整備等について

これまでも、教員の資質向上を図るための研修や、電子黒板などの環境整備を行ってきたが、デジタル教科書を活用することで、より質の高い授業を行い、学力向上を目指すものである。

これに対しては、「新しい教科書に合わせてデジタル教科書の活用が必要」という意見があることと併せて、「電子黒板・デジタル教科書が効果的に活用できるための研修が必要」「教員の指導力を向上させるための研修の充実」という意見も出されている。

③地域人材による学習指導について

学生ボランティアの協力や、コミュニティ・スクールとしての活動により、放課後学習会や土曜スクールなど、地域の方々による学習支援が充実し、学力向上の効果が期待できると考えている。

これに対しては、「教育実習を終えた大学４年生の支援」「地域で子どもを育てる」観点からの支援、現在の取組の「今後の広がりに期待する」などの意見が出された。

④小学校体育授業への支援について

水泳授業については、これまでも市教委が取りまとめのうえ、指導員の派遣を依頼していたが、昨年の会議での意見も踏まえ、本年度からは陸上・器械体操などについても市教委が取りまとめ、指導員の派遣を行っている。

各校の実施報告書からも「児童が意欲的に学ぶことができた」「教員が指導方法について学ぶことができた」という意見があり、「児童の体力・運動能力の向上」や「教員の指導力の向上」に効果があると見込まれることから、次年度は派遣回数を増やすことを検討している。

これに対しては、「体力向上につながる」「子どもが意欲的に取り組める」などの理由から「派遣回数を増やすべき」という意見を多くいただいたとともに、「教員が指導方法を学ぶ機会とする」「継続した指導が必要」という意見もあった。

⑤自由意見

「地域や家庭と一体になった取組が重要」「勉強が‘わかる・できる喜び’が実感できるような授業づくりが学力向上につながる」「理科指導の充実、支援員の配置」などの意見が寄せられた。

５．意見交換

①ＡＬＴ（外国語指導助手）の配置

Ａ委員：現在までの実施状況と次年度以降の方向性を考慮すると、増員することは考えていかなければならないと思う。子どもはＡＬＴの授業を楽しめると思う。小学校教員は英語を話せる人が多くないので、教員が英語指導について学べる機会の充実も必

要。

Ｂ委員：来年（令和２年）の春から、小学校５・６年生の英語の授業が始まると思うが、週に何時間となるのか。また、教員に対し、指導の研修は過去に行っているのか。

Ｃ委員：週２時間となる。

事務局：平成２９年度から２年間、移行期間が設けられており、その間にセミナーや研修を実施している。

事務局：和光小学校に配置された専科の教員を中心に行っていたところである。

Ｂ委員：ＡＬＴは何名ほど増員になる見通しか。

大嶋課長：増員の可否はまだ確定はしていないが、市教委としては２名増員の要望を提出しているところである。

Ｄ委員：移行期間中にはどのような授業を行っていたのか。

Ｃ委員：小学校では移行期間以前にも外国語活動としての時間が３５時間割り当てられており、ＡＬＴや地域人材が入った授業は行っていた。デジタル教科書の教材が用意されており、指導計画も整備されているので、来年の実施に向けてはその流れに沿って各校で授業が行われているところである。

Ｂ委員：今後、小学校５・６年生の担任は英語の指導ができるかどうかについても考慮が必要となるので、担任の配置も苦労するのでは。３～４年経過すれば大学で英語の指導に関わる授業を受けた新採用教員が増えてくると思うが、それまでは大変かと思う。

Ｅ委員：ＡＬＴとの連携について。日本語を話せないＡＬＴが昔よりも増加したように思う。教員が英語を話せないと授業計画等に関わるやりとりが難しいため、英語で橋渡しのできる教員が必要。中学校は問題ないかと思うが、小学校の先生はその点で大変かと思う。巡回指導教諭のような形でＡＬＴと自由に会話できる先生がいたら、そういったやりとりもスムーズになるのでは。

Ｃ委員：巡回指導教諭というのは有効だと思う。本校は今まで日本語の分かるＡＬＴが配置されることが多かったので、あまりコミュニケーション面で苦慮してはいなかった。小学校教諭は英語を教える前提で先生になっていないので大変かとは思うが、教材がしっかりしているのでそれを活用すると授業がやりやすいのではないか。

Ａ委員：小学校教員の中には、翻訳アプリを利用してＡＬＴとコミュニケーションをとっている例もある。

Ｆ委員：ＡＬＴの授業は教科書の授業とは異なるので、中学校よりは小学校での増員を中心に考えては。

事務局：そのとおりだと思う。中学校では英語授業のうち１０％がＡＬＴの授業だった

かと思うが、ＡＬＴの授業は会話のやりとりが中心となるため、教科書の内容は進まない。年間の指導要領を考慮すれば、小学校の増員を中心とした方が良いかと思う。

Ｇ委員：ＡＬＴは１人増員するだけでかなりの予算が必要になるかと思う。英語の『指導員』を多く採用し各校を繋ぐ方法もあるかと思う。予算の許す限りではあるが、ＡＬＴと指導員の両方の増員も考慮してみては。

Ｂ委員：それぞれの地域で英語を指導できる人材を探すことも必要かと思う。

②教員への研修、環境整備等

Ｆ委員：電子黒板やデジタル教科書等をせっかく導入しているので、どう使いこなすかが大切になると思う。

Ｇ委員：今年度、恵庭市内の全小中学校の全教室において、電子黒板の設置が完了した。導入当初より、ウインターセミナーにおいて活用講座を実施しており、今年度も実施されるかと思う。そのこともあってか、市内の教員は電子黒板をよく役立てていると思う。実物投影機と電子黒板を合わせた活用もされている。恵庭市は石狩管内の他市よりも導入が遅れていたが、その分（機種が）比較的新しく使い勝手が良い。デジタル教科書も設置できれば、電子黒板と合わせてより良い方向に活用していけるのではないか。

Ｄ委員：デジタル教科書を使用することでどのようなことが可能になるのか。

Ｅ委員：英語においては単語の音声を流すことができ、理科においては生徒が行うには少し危険な実験を動画で見ることができる。文章を音読してくれたり言葉の意味がすぐに調べられたりすることは勿論ではあるが、視覚・聴覚に訴えられるので、誰でも質の高い授業を行うことが可能になる。写真等の資料も豊富で、児童生徒の興味関心・知識を得ることができる。免許外の先生にとっては主に実技面で非常に有効だと思う。また、恵庭の学校は電子黒板が独立しているので、別途板書をすることも可能。

Ｂ委員：動画が見られるのは非常に良い。数学の立体図形を学ぶのにもとても有効。

事務局：各教員が資料を自作しなくても良い、というところも有効だと思う。

③地域人材による学習指導（放課後学習会。土曜スクール等）

Ｇ委員：島松小学校が夏休みに実施している学習会には、恵庭北高等学校の学生ボランティアが参加している。大学生だけでなく高校生を地域人材として活用するのも一つの手だと思う。教わる側の小中学生にとっても、教える側の高校生にとっても、良いきっかけになるのでは。こういった取組が進めば良いと思う。

Ｆ委員：コミュニティスクールや学校運営協議会といった地域との連携に関する話は以前より文部科学省から提言されているが、事務の面からも実現するのが困難であり、長い間、実施まで至っていなかったと記憶している。

Ｄ委員：柏陽中学校では平成２６年度より『まちなか学級』がスタートし、昨年度からは若草小学校と合同でコミュニティスクールとして、土曜スクールの取組が続いている。年に１０回ほど開催しているが、長く続けるためには、たくさんの参加者を集めようと気負いすぎたり、子どもに参加を強制させたりはせず、実際に来た子どもを対象に実施することが重要。講師が個別に勉強を見ることが可能で、子どもも分からないことを気軽に質問できる環境なので、非常に良い内容だと思う。地道な取組として広まっていけば良いと思う。

Ｇ委員：若草小・柏陽中の土曜スクールに参加して算数を学ぶ若草小学校の児童は、分からないことを教えてもらうために参加する子もいれば、中学校の校舎の探検目的で来る子もいる。この取組が小中連携の柱の１つとなっていると思う。

Ｃ委員：恵み野小学校では、水曜日の放課後に算数を中心に学習会を行っている。当初そこに加配の先生を１名配置したところ１００人近くの参加があり、先生のみでは対応しきれないため、現在では北海道文教大学の学生ボランティアにも手伝ってもらっている。大学生と小学生、教員の全員にとって良い取組だと思う。分からないことがすぐに聞けるのが嬉しいという小学生からの意見もある。今後も続けていきたいと思う。

Ｂ委員：講義の時間の関係からか、大学２年生の参加が最も多いように思う。また、学習指導以外にも、コミュニティスクールの中には通学合宿のような体験学習も含まれていると思うが、参加した小中学生が体験したことを将来どのように活かしているか楽しみである。

事務局：今年行われた恵庭小学校区の通学合宿に、過去の参加者が手伝いに来ていた。柏小学校地区では過去に通学合宿に参加した中学生が集まり当該地区の将来について語らう機会があった。人数は多くはないものの、少しずつ着々と繋がっているような印象を受けた。

④小学校体育授業への支援（体育指導員の派遣）

Ｈ委員：今年度は各小学校に６コマ分の予算が配分されており、派遣希望のあった学校に対し指導員を派遣・指導を行っている。昨日（９月４日（水））は和光小学校で鉄棒の指導を行った。児童１６４名に対し鉄棒が１６台で、どのような形で回そうかと考えながら現場へと向かったところである。指導していく中で、「授業支援」として一度の授業で子どもたちにやり方を指導し先生方にも理解してもらう、というイベントとしては良い取組だと思いながらも、体力の向上という点ではどの程度活かされるのか、疑問に思うところがあった。また、学校によって「１学年」の人数が異なることを考慮した時に、現在は３名を派遣しているが、このまま継続的に行うことが可能か、授

業への支援としてどう活用していくのか、考えていく必要がある。体力向上策として、子どもたちが体を動かすことが楽しいと気付けるようなサポートとして活用するのか、それとも一つの種目に焦点を当てて指導を行うのかはまた別だと思うので、その点も考慮すべきだと考えている。

また、地域人材の話と少し関連した話になるが、スポーツクラブの指導を手伝いに来る中学生が、運動の合間の時間を使ってクラブに所属する小学生の宿題を見てあげるというような、地域総合型スポーツクラブと学習が結びついた取組が行われている。スクールバスの関係から恵庭での実施は難しいかもしれないが、ハイテクでも今後似た取組ができないか検討しているところである。(電子黒板等の) デジタル機器が体育授業でも活用されているというのは(この会議の場で) 初めて聞いたことだったので、関連した現場での取組や情報があれば今後の参考に是非教えていただきたい。

C委員：恵み野小学校は昨年度より走り方教室を実施している。児童だけではなく、先生方の指導の参考にもなっているので、今後も是非お願いしたい。冬にもスキー学習における指導を依頼している。特にスキーや水泳については、安全面からもできるだけ多くの指導者に見てもらいたい。

E委員：他の自治体において、体育専科の教員が小学校で運動会前の時期に走り方の出前授業をした例があった。小学校側からは非常に感謝され、また一回の授業で教えただけでもタイムが変わった。先生方にとって教え方の参考にもなり、小中連携としては非常に良い取組だったと思うが、他校の先生に依頼するとなると時数が足りないので、できれば専門的な講師にお願いしたい。ただ講師を呼んで実施するだけではなく、各校における課題を解決する目的で講師を呼ぶ方法が良いと思う。中学校にも是非お越しいただきたい。

⑤その他自由意見

G委員：小学校の理科指導について。先生方の働き方改革という点からも、理科や英語、体育などの授業に専科の教員が配置されると、特に５・６年の担任にとってはありがたいと思う。ただ、専科の教員に授業を全て任せてしまうと担任の指導力が伸びないので、理科に関しては『支援員』を配置して、実験準備の手伝いや授業の際にはＴ２で入ってもらうような形で活用すると良いと思う。部活動以外にも教職員の負担となっている仕事は多いと思うので、外部人材に手伝ってほしいことの要望を各校において挙げてみてはいかがだろうか。例えば家庭学習ノートの点検等を地域人材に任せるなどすれば、働き方の面でも効果的ではないかと思う。

F委員：理科の支援員を配置しなくなったのは予算の関係もあると聞いているので、難しいとは思うが、１名程度の配置から始めて徐々に増やすことができればと思う。

Ｃ委員：実際に、理科支援員の配置要望は小学校の先生方からも非常に多い。担任が行わなくてはならない仕事とそうでない仕事、あるいは担任以外が行った方が良い仕事といった役割分担についてしっかり考えるべきだと思う。家庭学習ノートについては児童生徒と担任との一種のコミュニケーションであるという面もあるため、外部人材に任せることが一概に良いとは言えないが、なんでも担任に任せるということはせず、働き方について考えていければと思う。

Ｄ委員：前回（第１回会議）も取り上げた話題になるが、現在恵庭市の適応指導教室「ふれあいルーム」に通っている小中学生の中には、勉強が嫌いだという子がいる。内容が分からないことが理由なのだと思っていたが、個別に指導して分かるようになった後も勉強が面白くないという声もあり、学習に対する抵抗感が強い児童生徒が多いように思う。そういった児童生徒に対し、学校としても対応をお願いできればと思う。

６．その他

「恵庭市立学校における部活動の在り方に関する方針」について情報提供

７．次回の会議日程について

２月頃に開催を予定。

８．閉会